

全道第2位 “交通事故死ゼロの日” 6, 500日 達成

去る6月2日に交通事故死ゼロ6, 500日を達成した当町に、7月4日、総合文化センターで北海道交通安全推進委員会からの表彰状が贈られ、勝木後志総合振興局長より松井町長へ伝達されました。

町議会議員や町交通安全指導員等が出席した伝達式では、賞状の伝達、勝木後志総合振興局長と谷村余市警察署長の祝辞に続き、

松井町長が「さらに記録を伸ばせるよう、町民一丸となって交通安全運動に取り組みたい。」と謝意を述べました。

この記録はオホーツク管内西興部村(8, 552日(7月1日現在))に続く北海道第2位の記録で、観光シーズンには、



▲勝木後志総合振興局長(左)と松井町長

札幌圏や道内外から大勢の観光客が訪れる町でありながら「交通事故死ゼロ」の記録を一日ずつ積み重ねる積丹町の交通安全への取組は、各機関から高い評価をいただいています。

平成12年8月16日から続いているこの記録がさらに続くよう、町ぐるみで交通安全への取組を進めていきたいと思います。



積丹観光協会理事 葛西 幸子さん 北海道観光振興機構から表彰

公益社団法人北海道観光振興機構の平成30年度観光振興功労者に積丹観光協会理事の葛西幸子さん(87歳)が選ばれ、6月27日に札幌市内のホテルで表彰式が行われました。

葛西さんは昭和61年に同協会理事に就任。「丹水」のデザインやパッケージの作成では、多くの女性の意見を取り入れ、平成14年に北の生活産業デザインコンペで「デザイン・パッケージ部門」の銅賞も受賞されています。

また、観光客に対しおもてなしの心を持って接することを常に心がけ、町内の観光事業者にも研修会等でその大切さを伝え、地域ぐるみで観光客の受入体制整備に努めるなど、当町の観光振興に大きく貢献され、今も活躍されています。

積丹地域マリンビジョン協議会が「優良賞」

「やぐらまつり」に高い評価

7月3日に札幌市内のホテルで開催された「北海道マリンビジョン(MV)促進期成会」(会長・森苦前町長、会員30市町・32漁協)総会で、国の直轄漁港が所在する全道29地域のMV策定地域の内、モデル地域事業に指定されている積丹地域MV協議会の漁協青年部と観光協会が連携した「やぐらまつり」の取組が優良賞を受賞し、積丹観光協会

から逢坂節子事務局長が代表して出席し、表彰状を受けました。また、町農林水産課の高橋主任による当町の事例発表も行われました。

漁港と漁港背後集落の活力と賑わいのある地域づくりを目指した、町内の産業経済団体による異業種間のさまざまな連携の努力が高く評価されました。

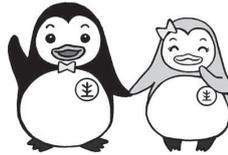


第68回 社会を明るくする運動



▲後藤幸夫余市地区保護司会長より松井町長へ内閣総理大臣メッセージが伝達

積丹町作文・標語入選作品



◆作文の部◆

〈中学生の部〉

金賞 『人と接する時に大切なこと』

銀賞 『「ありがとう」この一言で私は、もっと強くなる』

銅賞 『「夢」を持つ』

美国中1年 佐藤 達史さん

美国中1年 嶋田 楓華さん

美国中1年 梶浦 海音さん

◆標語の部◆

〈小学生の部〉

金賞 夢描く 仲間とともに 第一歩

銀賞 「だいじょうぶ」みんながいるから がんばれる

銅賞 やさしさで みんなの気持ち つながるよ

佳作 がんばろう ゆめがあるなら 歩き出せ

美国小6年 加藤 春奈さん

余別小3年 野宮 裕成さん

美国小3年 石川 友翔さん

美国小4年 窪内 玲奈さん

〈中学生の部〉

金賞 幸せは 笑顔の分だけ 増えていく

銀賞 繋げよう 感謝の襷 どこまでも

銀賞 支え合い 笑顔という名の 花ひらく

美国中3年 小原 みのみさん

美国中3年 金子 紫音さん

美国中3年 西川 亜依里さん

今年で68回目となる「社会を明るくする運動」が7月9日、北後志5町村の保護司や関係団体によるパレードが行われ、各町村へ「犯罪や非行のない社会づくり」の内閣総理大臣、北海道知事メッセージが伝達されました。

また町では、7月の強調月間に合わせ、町内小中学生から応募のあった93点の作文・標語の中から10点の入選作を決定し、7月18日、総合文化センターで奥山副町長より入賞者への表彰が行われました。

《「作文」・中学生の部》金賞受賞作品

「人と接する時に大切なこと」

美国中学校1年 佐藤 達史

みなさんは、人と接する時に大切にしていることはありますか。ぼくが人と接するときには、人や場面に応じて今言った方がよいこと、あえて言わない方がよいこと、また、自分の考え、意見をむやみに押し通さないことも大切だと感じました。それは、この二つの体験からです。

友達といっしょに公園に行った時のことです。公園では二人の小中学生がケンカをしていました。そこでぼくはケンカを止めました。ですが問題は解決されませんでした。次の日二人とも別々で遊んでいても機嫌が悪かったです。

しかし、あえてぼくは昨日の問題にふれずに皆で遊びました。すると、帰りには二人とも笑顔で帰りました。この経験からは言った方がよいこと、あえて言わない方がよいことを考えなければいけないのではないかと感じました。

自分自身の体験もあります。それは小学生の時です。友達五人くらいで鬼ごっこをしました。まずは、ぼくが鬼になりました。そこで、ぼくは

相手にタッチしました。しかし相手は「タッチされてない。」ぼくは「タッチした。」と少し言い争いになりました。

でも自分はすっかりタッチしたと言いたかったけど、相手も同じだったのでジャンケンで決めました。このことから、自分の考え意見を押し通さずに、相手も自分も平等になるように決めることも大切だと考えました。

また、学校生活の中でも、決めた事などでも時にはゆずってあげたり、時には自分の主張を発言したりと場面や人に合わせることも大切だと考えました。

人と接する中で、場面や人にあわせて、意見を発言することも大切です。また、ゆずったりゆずり合ったりして日常生活の中で人と接する時に気をつけて行動することも大切なのではないでしょうか。

このことを積み重ねることで人との信頼関係がぎすぎすしたり、皆との交流の中で気持ちよく暮らせると思いました。皆さんも場面、人に合わせたりに人と接することを心がけるとよいのではないのでしょうか。

火遊びはダメ！

シャコレンジャー登場

北後志消防組合積丹支署(伊谷支署長・署員17名)は、6月22日、びくに保育所で避難訓練を行いました。

園児たちは、「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の『おはしも』をしつかりと守り避難していました。

消火器訓練では、消火の仕方などの説明をよく聞き、消



▲消火器訓練の様子



▲シャコレンジャーから火遊びの危険性を学ぶ

火器を真剣な顔つきで使用するかわいい姿がありました。

また今回、園児たちに「火遊びは絶対にしない！」という意識を持つてもらえるよう、同支署では、火遊びをする悪者「火遊びマン」と、それを退治する「消防戦隊シャコレンジャー」の寸劇を披露しました。これは、火で遊ぶ「火遊びマン」をシャコレンジャー

が消火器で撃退するというもので、火遊びの危険性を園児たちに伝えるものです。

その後保育所では、「シャコレンジャーごっこ遊び」が行われているとのことで、子どもたちの防火・防災に対する関心を高めることができました。

多様な水難事故を防ぐ！

本格的な観光シーズンを迎え、全国各地から海水浴に訪れる人たちが多くなってきました。同支署では、多様な水難事故に備えるため、7月2



▲レスキューボートを使った救助訓練

日からの3日間、美国町小泊海岸で、9日からの3日間は野塚野営場で水難訓練を行いました。

小泊海岸では、水面上での溺水者をレスキューボートで救出する訓練や水面から溺水者の検索、引揚訓練を行ったほか、今回初めて訓練を行った野塚野営場では、事前に進入経路や海中を把握し、溺水者がいた場合にどのように救出するか、どこで事故が起きやすいのかなどを考察し、迅速な対応訓練に励みました。水難事故は、命を落とす重大な事故につながる可能性があります。事故を起こさないよう、十分に気を付けながら、レジャーを楽しみましょう。

全道大会で健闘！

「第47回全道消防技術訓練指導会」が7月21日に札幌市で行われ、「ほふく救出」種目で2隊6名で出場しました。

今回、大会に出場したのは、Aチーム(増山雅志隊員、北



▲大会に出場した6名の隊員

上信人隊員、佐々木啓仁隊員)、Bチーム(南方亮二隊員、角田陶宗隊員、佐藤弘輝隊員)の6名で、全道の36チームで技術を競いました。

結果は36チーム中、Aチームが10番目、Bチームが30番目で、残念ながら全国救助大会へ出場することはできませんでしたが、これまでの訓練を通して技術力はもちろん、体力・精神力の向上に役立てることができました。

同支署では今後も、町民の皆さんから期待される消防士を目指して、さまざまな訓練に励んでいきます。